



かんすい

日本水環境学会関西支部ニュースレター

No.13 (2010年5月1日発行)

— 編集・発行 —

日本水環境学会関西支部

— 連絡先 —

〒535-8585 大阪市旭区大宮5-16-1
大阪工業大学工学部環境工学科 渡辺信久
E-mail: watanabe@env.oit.ac.jp
Tel: 06-6954-4407 Fax: 06-6952-6197

第25・26期の支部体制の発足とその活動について

第25・26期関西支部支部長 藤井 滋穂

(京都大学地球環境学堂)

(社)水環境学会関西支部の皆様、日頃、関西支部の活動にご指導、ご支援を賜りありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。森澤眞輔 前支部長に続き、平成21年度および22年度（第25期および26期）の支部長を務めさせて戴くことになりました。すでに第26期に入った時期の挨拶で恐縮ですが、何卒、よろしくご指導、ご鞭撻、お願い申し上げます。

振り返れば、私自身、平成7年度～10年度に幹事、平成17年度から理事、さらに平成19年度からは副支部長として関西支部に携わり、水環境学会本部でも平成9年度～14年度に総財務幹事、平成11年度～14年度に編集査読部会委員を務め、また平成12年3月16日から18日に京都大学吉田キャンパスで開催された第34回水環境学会年会では実行委員会幹事長として、当学会に関わらせて頂きました。そのため、われわれの関西支部が他のどの支部よりも活発・精力的に種々の活動を行っていることを知っており、逆に支部長の職の重さを感じ、身の引き締まる思いです。

第25・26期でも、従来の路線を継承し、支部に設けられている種々の部会の活動や見学会のさらなる充実、NGOの皆さんとの交流・連携の拡充、支部表彰制度の継続実施、各種セミナー等の開催など、支部活動の基盤強化をめざすことに尽力したく存じます。本部関係の行事としては水環境学会シンポジウムが平成22年9月8～9日、京都大学吉田キャンパスで実施されることとなりました。私自身、主催校関係者として実行委員長として関わりますが、幹事の方々とともに関西支部企画等を通じて支部プレゼンス強化にも務めようと考えています。

このように、例年通りの活動は継続する所存ですが、支部幹事だけでなく支部会員の方々も多忙化しており、各種行事の企画・運営・参加がなかなか困難となっています。そこで、環境技術学会、土木学会環境工学委員会、廃棄物資源循環学会関西支部など関連する他学会と連携することで、効率的で相乗効果のある活動を実施できればと考えています。現在の支部幹事・理事の方々の多くは、同時にこれらの理事、委員、幹事として活躍され、その協力体制が得られやすい関係となっています。実際、平成21年度実施の見学会は、廃棄物資源循環学会関西支部と共催で実施し、魅力的な企画とすることができました。また、水環境学会シンポジウムの翌日（9月10日）は、環境技術学会が龍谷大学深草キャンパスで予定されていますが、これはわれわれ関西支部のメンバーによる調整の成果といえます。連続して2つの学会を京都で開催することにより、関西を盛り上げることができると考えています。

なお前期から、支部役員体制として官民学の3副支部長制が採られるようになり、田口寛 副支部長（京都府保健環境研究所、新任）、長谷川進 副支部長（㈱神鋼環境ソリューション、継続）、池道彦 副支部長（大阪大学、新任）が既に就任されています。また、渡辺信久 幹事長（大阪工業大学）共々、幹事会の体制を整え、新体制・新役割分担の下に活動を開始しています。会員の皆様が、関西支部のさらなる活性化に向けて、忌憚のないご意見に加えて、斬新な企画・提言を賜りますよう、また引き続きご支援、ご指導を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

関西水環境賞

藤田正憲（大阪大学名誉教授）

水道普及率・汚水浄化率が飽和に近くなるにつれ国内市場が狭くなり、水処理業界は大きく再編されています。また、企業の海外志向も本格化し、“装置から水事業へ”の掛け声も大きくなりましたし、国も関係機関をあげて水処理会社を応援しています。それでもこれまでの商習慣が抜けきれないのか、各社とも海外で苦戦していると聞きます。黒船が来航し、明治政府ができたとき、真っ先に「旧来の陋習（ロウシュウ）を破り天地の公道に基づくべし」と宣言した明治人の心に戻り、水技術者は世界の流れを真摯に受け止めなければならないと思います。日本の水処理技術はかつては1番だったかもしれませんが、技術は公開されるや否や陳腐化し始めます。後続が幾ら追いかけても、さらにその先を行く技術・製品を開発し続けなければ、すべてを失うでしょう。しかし、日本には蓄積された技術知・暗黙知があります。これを受け継ぎながら、旧来の陋習を破っていけば、常に先頭を走り続けることは夢ではないと信じています。世界をリードする若い技術者が育つことを期待します。

最後になりましたが、支部表彰を心より名誉に思っております。

和田安彦（関西大学名誉教授）

名誉ある「関西水環境賞」を頂き、誠にありがたく、会員の皆様に深く感謝いたしております。都市域のノンポイント負荷の定量、解析、制御の研究は、私が大学院の時から始め、ざっと40年間も学生諸君と一緒に進めてきました。この間、研究成果を学会、論文、雑誌などに発表して、閉鎖性水域では特に関心を持っていただきました。この分野ではアメリカのEPAの研究が進んでいましたが、それを参考にしながら、日本での研究成果を積み上げて行きました。わが国では、この分野の原単位もさしてなく野外調査をもとに、原単位を定量するため、若さと学生諸君のエネルギーによって進めてきました。研究成果が次第に蓄積され、この分野のまとまった情報がなかったため、研究成果を広く伝えるために、「ノンポイント汚染源のモデル解析」の著書を著せたのは思い出の一つです。

長くこれらの研究を続けて来られたのは、今のようにグローバル化が拡大しておらず、スピードの速い、変化の激しい時代ではなかったことと、日本水環境学会会員の皆さんのご支援の賜物と感謝いたしております。

関西水環境奨励賞

笠原伸介（大阪工業大学工学部）

この度は、「水道配水システムにおける微生物再増殖の評価と制御に関する研究」で、関西水環境奨励賞を頂きまして、誠にありがとうございます。

私がこの研究に着手したのは、学生時代にAOC（Assimilable Organic Carbon）の測定手法を知り、そのユニークな考え方に感心させられたことに端を発します。AOCとは、試料中で指標細菌を増殖させ、その最大増殖量から炭素濃度を推定するもので、DOを指標としてBOD（＝酸素消費ポテンシャル）が求められるのと同様、細菌数を指標としてAOC（＝細菌増殖ポテンシャル）が求められます。濃度の低い水道水には合理的な指標であり、当初は、浄水プロセスの処理性評価に用いていましたが、後に、本格的にこの研究に取り組むようになりました。

国内では、微生物再増殖に起因する深刻な事例は今のところ報告されていませんが、平成20年から、水道水質基準（水質管理目標設定項目）に従属栄養細菌が採用され、今後は、微生物管理の重要性が高まるものと思われます。そのような中、本研究が、水道水質のレベルアップに少しでも貢献することを期待するとともに、引き続き、有益な成果が得られるよう努力する所存です。これからもご指導、ご鞭撻の程よろしくごお願い申し上げます。

関西水環境社会・文化賞

中川豊己（長浜市立びわ中学校 PTA会長）

この度「琵琶湖岸へのヨシ植栽による自然再生活動を通じた地域密着型環境教育」で関西水環境社会・文化賞をいただき、8年間にわたって活動してきたことが評価され、大変に喜んでおります。先日、歴代PTA会長が集まる会があり、その席でも受賞の喜びを皆さんとともに分かち合うことができました。

ヨシ植栽の活動は、8年前のPTA会長が琵琶湖と同じ「びわ」と名のつく町（旧びわ町）で、琵琶湖の近くに住んでいながら琵琶湖が身近なものとなっていない、琵琶湖にふれる時間を作らなければという思いで始められたものです。ここ4年は学校の総合学習（環境教育）としても位置づけて、学校とPTAがともに補完しながら活動を進めてきました。はじめの頃は、それほど積極的ではなかった生徒たちも、今では小学生の頃から中学校へ行ったらヨシの植栽をするものだ、がんばらなくてはと言うようになりました。今年の植栽では、新聞記者のインタビューに堂々と意見を述べている生徒たちを見て大変頼もしく思いました。今年は小学校とも一緒に活動ができました。これまでご支援、ご協力いただいた長浜市をはじめ各種団体の皆さんに感謝の意を表するとともに、10年目に向けてさらに活動の輪を広げていきたいと考えています。

田島卓明（おおつ環境フォーラムいきいき河川グループ 代表）

治水、利水が偏重された都市河川は生きとし生きる物たち生々発展の節理に反し、直線的コンクリート3面張りの、見るも無惨な排水溝に姿を変えて来ました。人間横暴のそしりをまぬがれぬ所、最近ようやく反省に向い、生物多様性、環境整備が叫ばれたことは幸いであります。

私どもは、この様に疲弊した身近な河川が魚達の生き生きと棲みつく自然豊かな姿を取り戻すことを願って活動して居ります。

大津市内の21河川について河口から上流まであまねく歩き、護岸の状況、生き物生息の環境などを調査し、その実態と改善策をまとめて「川はいま」として出版しました。また、より深い視点・知見を得るため講演会や見学会を実施するなど情報の収集整理、自然環境への啓発活動を続けて居ります。そして具体的な改善活動への一歩として大津市内・三田川水辺の楽校運営協議会に参加し、魚道や魚礁・ワンドの試掘など生物活性化計画を推進中であります。学会よりの今回の受賞は私どもグループにとって強い支援と有難く受け止め更なる活動の積極化を期する所であります。

研究部会便り

環境モニタリング情報部会

【連絡先】担当支部幹事 田口 寛（京都府保健環境研究所）
E-mail h-taguchi91@pref.kyoto.lg.jp

河川や海域における水環境の蓄積されてきた膨大なモニタリングデータを整理・解析することにより、現在の水環境の現状・課題を明らかにし、また、それらを踏まえた将来の水質予測を行うことを目的に、大学、地方の研究機関及び民間の会員が合同で、部会活動を推進しています。

今期は、淀川水系をはじめとする関西の河川について、統一的に水質データを整理し、地域特性とも関連させて解析を進めつつあります。

生物部会

【連絡先】担当支部幹事 田口 寛（京都府保健環境研究所）
E-mail h-taguchi91@pref.kyoto.lg.jp

生物は多種多様であり、幅広い分野で調査研究されていますが、本部会は、身近な水環境の生物に焦点を絞り活動しています。実際に水辺の状況を目で見、肌で感じて、現場の水環境を知っていただくために、2年毎に川部会と合同で、ミニフォーラムとして河川観察会を開催しています。本年5月16日（日）に、鴨川上流の岩倉川で河川健康診断を行いますので、皆様方の御参加をお待ちしています。

日本水環境学会関西支部 平成22年度 第1回ミニフォーラム —生物と水質による鴨川健康診断—のご案内

関西支部のミニフォーラムとして、河川観察会（担当：生物部会および川部会）を企画しました。京都市内の鴨川上流の岩倉川で、実際に川で水生生物を採集し種類を調べ、簡易水質検査も行うことで、河川環境の状況を観察し、河川の健康診断を試みたいと思います。皆様のご参加をお待ちしております。

観察用具はこちらで用意致します。水にはいる方は長靴など水に濡れてもよい用意を御願います。ビーチサンダルはすべりやすいので、上靴など底が滑らないものが安全です。観察するためのルーペ、魚捕りの網をもっておられる方は持参してください。

- 【主催】** (社) 日本水環境学会関西支部
- 【期 日】** 2010年5月16日(日) 午前9時45分～12時 雨天の場合、中止(小雨の場合は決行します。)
- 【集合場所】** 宝ヶ池公園北出入口(子どもの楽園、公園事務所への入口、千石橋付近)
京都市地下鉄国際会館から徒歩15分、叡山電鉄宝ヶ池から徒歩5分
- 【定 員】** 先着30名 **【対 象】** 幼児から大人まで、年齢は問いません。 **【参加費】** 無料
- 【申込方法】** 氏名、所属、性別、年齢、連絡先(TEL/FAX、E-mailアドレス等)をご記入の上、下記宛て、なるべくメールもしくはFAXでお申込み下さい。申込締め切りは5月10日(月)とさせていただきます。
- 【申し込み・問い合わせ先】** 田口 寛(京都府保健環境研究所) 〒612-8369 京都市伏見区村上町395
TEL: 075-621-4164・FAX: 075-612-3357・E-mail: h-taguchi91@pref.kyoto.lg.jp
駒井幸雄(大阪工業大学工学部環境工学科) 〒535-8585 大阪市旭区大宮5丁目16-1
E-mail: komai@env.oit.ac.jp

2009年度 関西支部役員名簿

顧 問	井上頼輝	京都大学名誉教授	宇野源太	元大阪工業大学	奥野年秀	元(財)ひょうご環境創造協会		
	寺島 泰	京都大学名誉教授	福永 勲	元大阪市立環境科学研究所	村岡浩爾	大阪大学名誉教授		
名 誉 理 事	山田 淳	立命館大学	河合 章	元近畿大学	川合真一郎	甲子園大学		
	金子光美	元立命館大学	菅原正孝	大阪産業大学	宗宮 功	琵琶湖・淀川水質保全機構		
	北村弘行	元(株)瀬戸内海環境保全協会	土永恒彌	元大阪市立環境科学研究所	永井勉夫	元大阪府環境情報センター		
	園 欣也	元兵庫県立工業技術センター	藤田正憲	高知工業高等専門学校	和田安彦	関西大学		
	中本雅雄	NPO大阪環境カウンセラー協会						
	藤井滋穂	京都大学						
支 部 長 ・ 理 事	副支部長・理事	長谷川進	(株)神鋼環境ソリューション	田口 寛	京都府保健環境研究所	池 道彦	大阪大学	
	理 事	天野耕二	立命館大学	飯田 博	(株)ガンマー分析センター	石川宗孝	大阪工業大学	
		井端泰彦	京都府保健環境研究所	海老瀬潜一	摂南大学	貫上佳則	大阪市立大学	
		國松孝男	滋賀県立大学名誉教授	古武家善成	(財)国際エメックスセンター	駒井幸雄	大阪工業大学	
		竺 文彦	龍谷大学	高原信幸	元神戸市環境保健研究所	津野 洋	京都大学	
		内藤正明	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	中島 淳	立命館大学	中室克彦	摂南大学	
		服部幸和	大阪府環境農林水産総合研究所	平田健正	和歌山大学	福嶋 実	大阪市立環境科学研究所	
		松井三郎	京都大学名誉教授	森澤真輔	京都大学	矢野 洋	元神戸市水道局	
		山田春美	元京都大学	山中芳夫	大阪学院大学	園田竹雪	(財)ひょうご環境創造協会兵庫環境研究センター	
		芳倉太郎	元大阪市立環境科学研究所	米田 稔	京都大学			
	監 事	中出 昌宏	(株)クボタ	中野 武	(財)ひょうご環境創造協会兵庫環境研究センター			
		幹 事	長 渡辺 信久	大阪工業大学	飯田 博	(株)ガンマー分析センター	市木敦之	立命館大学
			事 浅野昌弘	龍谷大学	奥野智史	摂南大学	兎本文昭	奈良県保健環境研究センター
			上堀美知子	大阪府環境農林水産総合研究所	笠原伸介	大阪工業大学	門口敬子	(財)関西環境管理技術センター
			大久保卓也	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	貫上佳則	大阪市立大学	北本寛明	(財)ひょうご環境創造協会 兵庫環境研究センター
		川崎直人	近畿大学	小泉義彦	大阪府立公衆衛生研究所	後藤敦子	尼崎市立衛生研究所	
		紀本岳志	(株)環境理化学研究所	斎藤方正	大阪府水道部	佐藤祐一	滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	
		駒井幸雄	大阪工業大学	清 和成	大阪大学	田中周平	京都大学	
		新矢将尚	大阪市立環境科学研究所	濱崎竜英	大阪産業大学	肥田嘉文	滋賀県立大学	
		名和慶東	ユニチカ(株)	藤井俊樹	(財)ひょうご環境創造協会	藤原康博	大阪市立環境科学研究所	
		広谷博史	大阪教育大学	三浦雅彦	(株)神鋼環境ソリューション	宮崎 一	(財)ひょうご環境創造協会 兵庫環境研究センター	
		船石圭介	アタカ大機(株)	山林右二	東大阪市環境部	米田 稔	京都大学	
		八木正博	神戸市環境保健研究所					
		和田桂子	(財)琵琶湖・淀川水質保全機構					